

2019年3月19日

SDGs東京学習会

各地方行政のSDGs取り組みの実情と
地方創生との具体的取り組みについて

～SDGsと地域のリアル～

NPO法人ちょうふこどもネット

副理事長 横山泰治

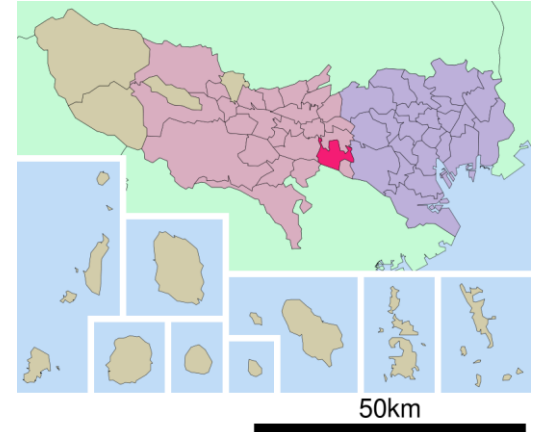
プロジェクト「From」

調布から！復興支援プロジェクト 代表

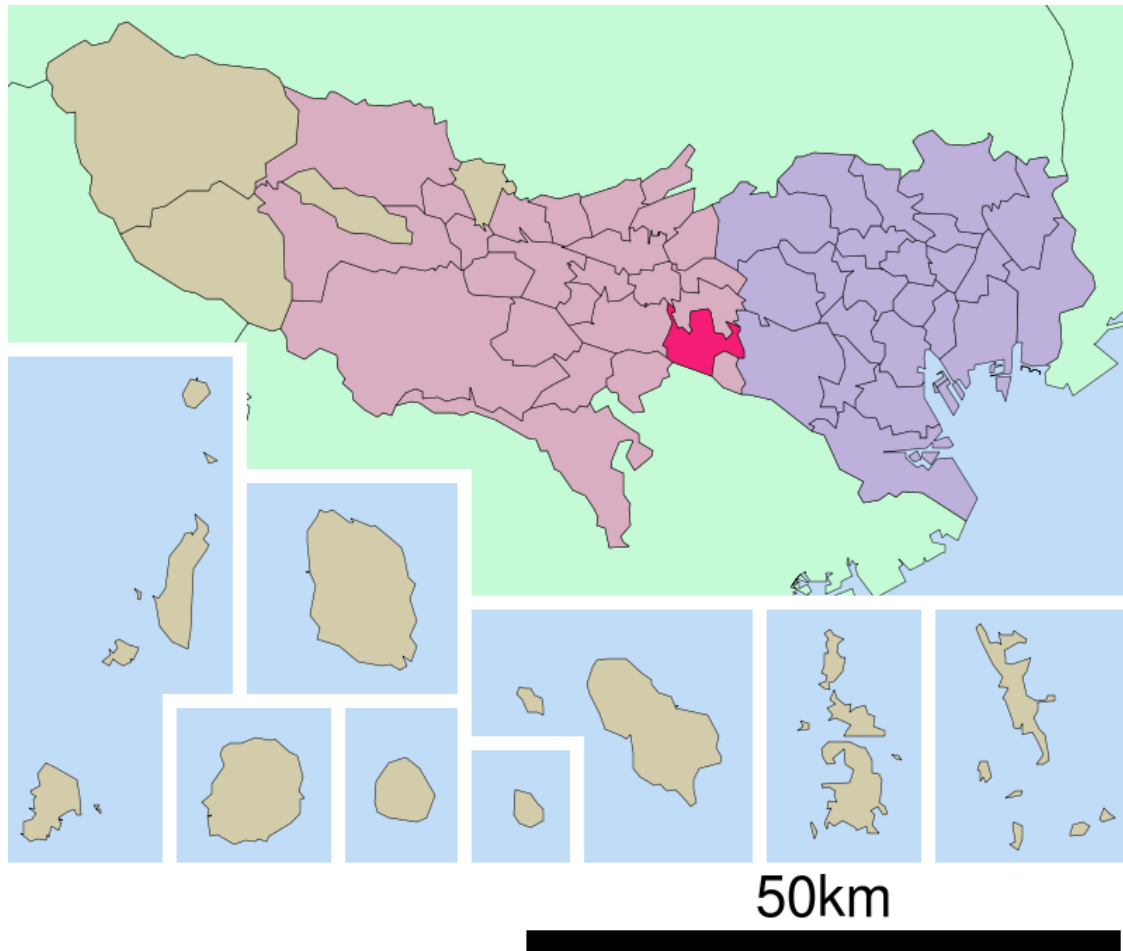
東京都調布市とは？

- 調布市（ちょうふし）は、東京都の多摩地域東部にある市。
- 東京23区に接し交通の便も良いが、古くからの寺社や武蔵野の自然も残っており、都心に近く住環境の整った住宅地。
- 古刹深大寺で知られ、隣接する神代植物公園は旧寺領であった。
- 名物として深大寺そばがあり、その歴史は古く、江戸名所図絵に記載がみられる。

(Wikipediaより抜粋)



なぜ、調布でSDGsなのかなのか？



最近の調布関連ニュース

- 2012年から調布駅が地下化し、目下再開発中
- 2013年東京国体で陸上競技の会場となる
- 2017年深大寺の白鳳仏が国宝に選定
- 2018年ゲゲゲの鬼太郎再アニメ化
- 2019年ラグビーワールドカップの開会式及び開幕戦の会場に決定
- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の会場に決定
(種目：近代五種・バドミントン・サッカー・ラグビー・自転車競技)




持続可能への岐路・世界的イベント実施

- 多摩地域の東端として「住み続けられるまちづくり」とは
- スポーツを通じた健康と福祉で何を創りあげられるのか
- 深大寺などを含む32%の緑被率からの環境保全
(23区内の緑被率は19.8%、多摩地域は67.1%)
- 2019年ラグビーワールドカップ・オリンピック・パラリンピック東京2020大会の会場としてのSDGsへの取り組み



SDGsアクションプラン2019

- 2018年末に政府からSDGsアクションプラン2019が発表されました。その中に、SDGsを原動力とした、地方創生/まちづくりを進めていくと謳われています。

 『SDGsアクションプラン2019』のポイント

- 日本は、豊かで活力のある「誰一人取り残さない」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「人間の安全保障」の理念に基づき、世界の「国づくり」と「人づくり」に貢献していく。
- 『SDGsアクションプラン2019』では、次の3本柱を中核とする日本の「SDGsモデル」に基づき、『SDGs実施指針』における8つの優先分野に総力を挙げて取り組むため、2019年におけるより具体化・拡大された政府の取組を盛り込んだ。
- 2019年のG20サミット、TICAD7、初のSDGs首脳級会合等に向けて、①国際社会の優先課題、②日本の経験・強み、③国内主要政策との連動を踏まえつつ、以下の分野において国内実施・国際協力の両面においてSDGsを推進。

| I. SDGsと連動する「Society 5.0」の推進 | II. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり | III. SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント |
|---|--|---|
| <p>中小企業におけるSDGsの取組強化</p> <ul style="list-style-type: none">大企業や業界団体に加え、中小企業に対してもSDGsの取組を強化。「SDGs経営/ESG投資研究会」の開催等を通じて、『SDGs経営イニシアティブ』を推進。TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言を踏まえ、企業の取組を促進。『中小企業ビジネス支援事業』を通じた途上国におけるSDGsビジネスの支援。 <p>科学技術イノベーション(STI)の推進</p> <ul style="list-style-type: none">統合イノベーション戦略推進会議下の「STI for SDGsタスクフォース」で、『ロードマップ』やそのための「基本指針」を策定。「STI for SDGsプラットフォーム」の立ち上げも準備。STIフォーラムやG20関連会合を通じ、国際社会における議論を促進。 | <p>SDGsを原動力とした地方創生</p> <ul style="list-style-type: none">SDGs未来都市の選定、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム等を推進。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2025年大阪・関西万博を通じたSDGsの推進。ICT等先端技術を活用した地域の活性化。スマート農林水産業の推進。 <p>強靱かつ環境に優しい循環型社会の構築</p> <ul style="list-style-type: none">国内外における防災の主流化の推進。質の高いインフラを通じて連結性を強化。海洋プラスチックごみ対策を含む持続可能な海洋環境の構築。地域循環共生圏づくりの推進。日本の技術・経験を活かした気候変動対策への貢献。省エネ・再エネ等の推進。 | <p>次世代・女性のエンパワーメント</p> <ul style="list-style-type: none">「次世代のSDGs推進プラットフォーム」を始動し、国内外における具体的な取組を推進。3月に同時開催するWAW!(国際女性会議)とW20(G20エンゲージメント・グループ会合)において女性活躍のための方途について議論。 <p>教育・保健分野における取組</p> <ul style="list-style-type: none">国内で、幼児教育から高等教育まであらゆる段階において「質の高い教育」を実施。G20関連会合やTICAD7を通じ、日本の経験を共有しつつ、国際教育協力やUHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)を推進。 |

展開とフォローアップ

- 日本のSDGsモデルを、東南アジア・アフリカを重点地域としつつ、国際社会に展開していく。
- 国際的な指標等に基づいて、これまでの取組をレビューし、2019年後半に『SDGs実施指針』を改訂

「SDGs de 地方創生」 ゲームとは

- 「SDGs de 地方創生ゲーム」は、これからの12年間にみなさんの地域がどうなっていくのか、をシミュレーションするゲームです。
- 参加者は、行政担当者または住民として、それぞれ目標を立てて12年間活動していただきます。



「2030 SDGs」ゲームの説明

- 「2030 SDGs」 (ニーゼロサンゼロ エスディーージーズ) のカードゲームは2030年のわたしたちの世界がどうなっているのかをシミュレーションするゲームです。
- 参加者は、それぞれゴールをもって2030年まで活動していただきます。

地域→SDGsのパラダイムシフト

- SDGsが地域に及ぼす大きな付加価値は「ムーンショットとバックキャストイング」であるとも言えます。
日本の経営者や行政、地方議員の多くは「積み上げ」思考(パラダイム)には慣れていますが、2030年の理想の姿を想像し、そこから逆算して、いま必要なイノベーションを起こしていく、という新しい思考(パラダイム)には馴染みがありません。
- SDGsが2030年のゴールを明確にすることで今までのパラダイムがシフト大きく変化するパラダイムシフトが起きている。とも言えます。

ムーンショットとは？

- アメリカの第35代大統領
ジョン・F・ケネディ（在任
期間1961年1月～1963年11
月）が次のように述べたこ
とに由来する。
- 「我が国は目標の達成に全
力を傾ける。1960年代が終
わる前に、月面に人類を着
陸させ、無事に地球に帰還
させるという目標である」

